

## NEWS RELEASE



2024. 6. 25

報道関係者 各位

< 配信枚数3枚 >

### 持続可能な代替手段としての月経カップの普及

#### 比較研究の結果、費用対効果の情報が重要な促進要因であることを強調

立命館大学政策科学部(大阪府茨木市)の上原拓郎教授らの研究チームは、同政策科学部の Sitadhira Prima Citta、Université de Versailles Saint-Quentin-en-Yvelines(フランス)の Mateo Cordier 准教授、上智大学の柘植隆宏教授、総合地球環境学研究所の浅利美鈴教授を含むメンバーと共に、日本、インドネシア、フランスにおける生理用品の消費者の意思決定プロセスを分析し、持続可能な消費を探究する研究を行いました。本研究結果は「持続可能な選択肢としての月経カップの推進: ラベル付き選択実験を用いた比較研究」として、2024年6月24日(日本時間)に、サステナビリティ学に関する学術誌「Frontiers in Sustainability」に掲載されました。

#### < 本件のポイント >

- 月経カップを推進するためには、環境や健康に関する情報ではなく、費用対効果に関する情報が、重要な影響を与えることが明らかになりました。
- 消費者の特性や月経に対する考え方、生理用品の新規性や環境に対する態度は消費者により異なり、市場ごとに特化したプロモーション戦略が必要であることが明らかになりました。
- 月経カップを無料配布することで、日本、インドネシア、フランスの国において、月経カップの採用促進と生理の貧困の緩和に貢献する可能性が示唆されました。

#### < 研究成果の概要 >

本研究では、日本、インドネシア、フランスのいずれの国においても、月経カップの使用と認識は未だに限定的であること、また、生理用品に関する情報や使用の経験が、月経カップの普及に関係があることを明らかにしています。調査結果は、費用対効果が月経カップの普及において重要な要因であることを示しており、消費者の持続可能な選択を促すために、経済的な利点を強調する政策やプロモーション戦略が必要とされています。さらに、社会的規範等、異なる社会文化的文脈における多様な消費者特性を考慮した、持続可能な消費に特化した戦略の検討にも注力しています。また、月経カップの無料提供は、その普及を大幅に促進し、特に低・中所得国において生理の貧困の緩和に役立つ可能性があります。

#### < 研究の背景 >

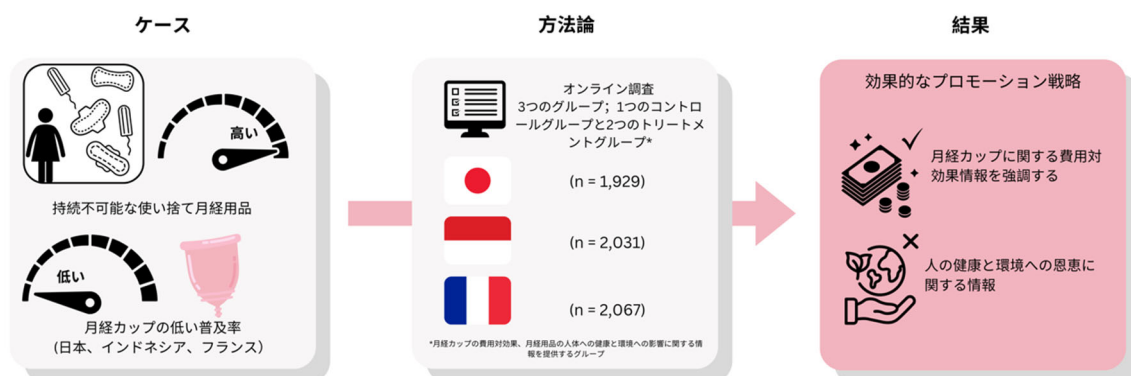
プラスチック汚染は、人間の健康と生態系の両方に危険をもたらす世界的な社会課題です。使い捨てプラスチックの持続可能な代替品に対する関心は高まっているものの、未だ十分ではありません。不織布等のプラスチックを原材料とする生理用品も例外ではありません。使い捨て生理用品の大量廃棄が引き起こす環境問題に対応するため、持続可能な月経用品の実現を目指して月経カップが推進されています。しかし、月経カップは環境や健康への利点があるにもかかわらず、その普及は限定的です。女性の

月経衛生管理に対する認識や態度に関する先行研究は数多く存在しますが、持続可能な生理用品のプロモーション戦略の立案に関する研究は十分でないと考えます。このため、本研究では、異なる社会文化的文脈における多様な特徴を持つ消費者の選好を調査し、持続可能な選択肢としての月経カップを促進する効果的な戦略を提案しています。

#### < 研究の内容 >

本研究は離散選択実験(DCE)を使用し、情報介入の影響を評価するために、各国の回答者に生理用品に関連する情報を与えたグループと与えていないグループに分けてオンラインアンケートを実施しました。その結果、月経カップの使用を促進するうえで、月経カップの使用1回当たりに換算した費用に関する情報が、生理用品の健康や環境に関する情報と比較して、すべての国で決定的に重要であることが判明しました。また、月経カップを選択する際の障害として、月経に対する認識、新しい生理用品に対する親しみ度合い、環境に配慮した消費の重要視なども心理的要因に影響していることが明らかになりました。これまでの研究では環境に関する側面に注目していましたが、今回の研究成果により、健康および環境情報は影響が見られず、費用に関する情報が共通の懸念事項であることが明らかになりました。3カ国間の消費者の違いとしては、市場ごとにプロモーション戦略が異なることです。また、月経カップを無料で提供することで、全ての国において月経カップを採用する強い意向が示されました。これは、社会文化的背景を問わず、一般市民への普及を促進できる可能性を示しています。つまり、生理の貧困を緩和することは持続可能な社会に貢献することに繋がります。

#### 持続可能な代替手段としての月経カップの普及： ラベル付き離散選択実験を用いた比較研究



#### < 社会的な意義 >

本研究は、生理用品が環境に与える影響を最小限に抑え、生理の貧困の緩和に取り組むことで、地球のキャパシティの範囲内で人類が持続可能な生活を送ることに貢献するものです。生理用品の費用対効果を強調することで、本研究は、異なる社会文化的背景をもつ多様な消費者に合わせた政策的インセンティブとプロモーション戦略を立案するための貴重な洞察を提供しています。本研究成果の活用が、持続可能な生理用品の選択を効果的に促し、プラスチック廃棄物による環境汚染と自然資源の消費を抑制しています。さらには生理の貧困の緩和にも貢献することが期待されています。

#### < 研究者のコメント >

本研究はアンケート調査による消費者の選好を明らかにしたもので、実際に行動変化を計測した研究ではありません。今後、月経カップの使用一回当たりの費用を表示したり、無料で配布したりすることによる消費者の行動変化を計測する実験が期待されます。

なお、本研究は独立行政法人環境再生保全機構「環境研究総合推進費(JPMEERF21S11920)」の助成を受けたものです。

## <論文情報>

論文名 : Promoting menstrual cups as a sustainable alternative: A comparative study using a labeled discrete choice experiment

著 者 : Sitadhira Prima Citta、上原 拓郎、Mateo Cordier、柘植 隆宏、浅利 美鈴

発表雑誌 : Frontiers in Sustainability

掲載日 : 2024 年6月24日(月)(日本時間)

D O I : 10.3389/frsus.2024.1391491

U R L : <https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/frsus.2024.1391491/>

## <用語説明>

1 月経カップ: 柔軟性のある医療用シリコンで作られた使い捨てではない生理用品。10～38 ミリリットルの容量を持つ特別に設計された容器を使用し、毎月の月経周期を通して月経液を収集する目的で使用される。

2 DCE: 離散選択実験 (Discrete Choice Experiment: DCE) とは、一般的によく用いられる表明選好法 (Stated Preference Method) の一つで、個人が意思決定を行う際に、最大の効用 (ベネフィット) を提供する製品やサービスの代替案を選択することで、トレードオフを行うという考えのもとに個人の選好を明らかにする手法である。

以上

---

## ●本件に関するお問い合わせ先

(研究内容について)

立命館大学 政策科学部 教授 上原 拓郎

TEL. 072-665-2080

Email. [takuro@fc.ritsumei.ac.jp](mailto:takuro@fc.ritsumei.ac.jp)

(報道について)

立命館大学広報課 担当: 勝屋

TEL. 075-813-8300

Email. [r-koho@st.ritsumei.ac.jp](mailto:r-koho@st.ritsumei.ac.jp)